

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	住み慣れた地域でそのひとらしく豊かな生活ができるように支援していく。という理念を作っている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は朝のミーティングで声に出して読み上げ、日々業務に取り組んでいる。各ユニットの理念は玄関に貼りだしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	理念は玄関に貼り、ご家族様にも理解してもらうようにしている。		今年、1度各部署からの記事を載せた新聞を発行したが、1度だけでなくもう少し発行できたら良いと思う。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域のお店や美容室等日常的に活用している。近所の方にも気軽に立ち寄って頂けるよう、花木をおいたり、腰掛けようの椅子を置いたりしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、行事に参加している。ホームの夏祭りにも多くの地域の方々が参加して頂いている。		町内会の行事に利用者様も、もっと参加し、交流を深められたら良いと思う。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ボランティア(高校生)に来ていただき色々とお手伝いして頂いている。また、中学生の職業体験実習やヘルパー実習の受け入れをしている。		グループホームを理解して頂く為に今後も受け入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>自己を振り返り、評価する事で業務を見つめ直し、改善できるよう取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>施設内での勉強会を企画していきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>利用者様への言葉がけやケア時には細心の注意をはかっていきたい。また、施設内での勉強会や研修にも多く参加し学んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	不満等を表せる機会として、玄関先には苦情BOXの設置をしている。また、普段の生活で利用者様と接する中で不満や要望がないのかお話している。また、不満や要望があった際は職員間で話し合い、希望に沿うように検討している。		利用者様が不満等を溜め込まないように日々理解するよう努めていきたい。また、口にせずとも、表情や仕草、態度でも感じ取ってきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族様へは面会に来られた際に日々の様子をお伝えしている。面会が少ないご家族様へは電話にて報告している。金銭管理については、お小遣い帳を活用し、面会時にご家族様へお見せしサインを頂いている。面会が少ないご家族様へは郵送している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議時ご家族様より、ご意見、ご要望等を伺い、また、意見箱・苦情BOXの設置をしている。ご家族様が面会された際にコミュニケーションを図り対応している。入居契約時において、当ホーム以外にも苦情等の相談窓口がある事を書面を通じて説明させて頂いている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝のミーティング、毎月のユニットカンファレンス、リーダー会議等行い、意見等聞く機会を設けている。また、日々の業務内でも意見交換している。		意見等溜め込まないように吐き出しやすい環境を整え、それに対してしっかり対応をしていく。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事や受診日は職員の数を多く配置している。また、職員に負担がかからないような超過勤務体制をすることもある。高校生ボランティアによる掃除等のボランティアを活用し、不穏時には寄り添い、かわりを多く持てるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの関係、信頼関係を築くため、職員の異動はしていない。離職者も少なく安定している。退職者があった際も、新しい職員に利用者様のこと、業務内容を詳しく教えている。また、業務、ケアにも慣れていたただけのまでに十分に時間と人数を設け(日中は4人体制、夜間は2人体制)トラブルが起きないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>定期的に施設内勉強会を行い、日頃の介助においての役立つ情報や技術等の知識を深めている。また、社外への研修等へも参加しやすいように交通費や参加費、研修中の賃金等の支給をしてくれている。</p>	<p>参加した研修内容を他職員へ伝達する機会がなく、設けるべきである。定期的に行っている施設内勉強会の内容を伝達講習会の場として企画しても良いかもしれない。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者連絡会議や区での会議、研修会等で交流・情報交換をしている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員間での交流会を実施している。また、毎月のカンファレンスの場でも日頃の悩みや思いをお話し、職員間で理解している。長期休暇、有給休暇についても、活用されている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>実績、勤務状況は把握し、精神的に負担なく向上心を持って働いていけるように日頃から言葉掛けを行い、適した研修の参加を促し向上心を持ってもらう。</p>	<p>職員一人ひとりが利用者様にとっての心地良いグループホーム作りをしていくことに意識を持ち、目標を持ってもらいたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご本人様とお会いし、認知症状・全身状態・生活状況を確認し、ご家族様や関係者からも情報をお聞きしている。職員間でも情報を共有し、信頼関係を築けるよう検討している。利用者様が少しでも生活しやすい環境を整え、尊厳を大切に支えている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に施設、生活風景を見ていただき、ここでの暮らしについて説明している。生活していくにあたっての不安やご要望をお聞きし、私たちに出来ることを確認しあう。そして、安心してご利用して頂けるように対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際は、必要としているサービスがあれば、当ホームの利用だけに留まらず、関係機関に繋げる等柔軟な対応をしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前の見学や、職員の訪問による顔馴染みの関係を築く。また、待機者の中に併設のデイサービスをご利用して頂いている方には、時折ホームへ来ていただき、顔なじみの関係を築き、環境にも慣れるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家事と一緒にし味付けを見ていただいたり、茶碗洗いや茶碗拭きなどお手伝いして頂いている。また、ゆっくりご利用様とお話(戦争の話を教えて頂く)をしたり生活を過ごす事で、一方的な介護にはならないようしている。職員も長く共に生活をする事で気持ちを受け止め、一人ひとりにあったケアを心がけている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られたご家族様に入居者様の日頃の様子をお伝えしている。また、ご家族様もクリスマス会や、夏祭りに参加し共に楽しまれている。今後もこの様な関係性を大切にして行くと共に、ご家族様からの意見・要望をお聞きし、対応していく。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	面会に来られる回数も多く、面会時はラウンジや和室にてお茶を飲みながらゆっくりとお話されている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者様の知人や友人からの電話の取り次ぎし、来訪されたときはラウンジ等でゆっくり過ごして頂いている。また、利用者様のご希望に沿って外出もしている。		ご家族様とも情報交換しながら、出来る限り馴染みの人や場所を失わないように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員は利用者様の関係をしっかり把握し、孤立しないようにケアはしている。食事の席の配慮等、トラブルが起きた際には職員が介入し、関係が悪化しないように努めている。		利用者様とお話し、ご要望をお聞きしたり、感じ取りしている。また、トラブルの発生の状況等を職員間で情報共有し防止策を検討している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約が終了しても年賀状を頂いたり、入院先へのお見舞いに行ったりと関係は続いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントにより、生活歴、ライフスタイル等の把握をし、利用者様が過ごしやすい環境を整えている。また、馴染み深い家具等もお持ち頂き、親しみやすい居室作り、今までの生活を大切に考えている。お話の出来ない利用者様はご家族様からお話を伺いながら環境を整えている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人やご家族様から生活歴や思い出等をお聞きし、その人らしい生活が出来るよう努めている。		まだまだ情報不足だと思うので、生活歴、ライフスタイル等を把握していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者様のしたいこと出来ることに着目し、それを生活の中で発揮できるようなケアを努めている。また、変化があった際は、職員全員が情報共有し対応している。(連絡ノート活用)		利用者様の潜在能力の維持・向上の為に、持っている能力を把握し発揮できるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族様、職員、管理者、計画作成担当者間で情報交換をしケアプランを作成している。また、カンファレンスにて状態の把握やケアの検討等をし、ケアプランを修正している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に介護計画作成の日を設け、見直しを行っている。入院や身体、精神状況に変化があった場合は、状況に応じ御家族様へ情報を報告しながら臨機応変に介護計画の見直しをしている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	健康状態は毎日バイタル測定しバイタル表へ記入している。日常生活は生活記録へ、病院等へ受診した際は受診報告書へ記入しご家族様へも自由に閲覧できるようにしている。また、職員間はそれ以外に連絡ノートを活用し、漏れのないようにしている。それらの情報を共有し実践している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設のデイサービスへ遊びに行ったりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近くの高校のボランティアサークルによる定期的なボランティア(週2回)が来ている。お掃除や利用者様とお話をしたりと、支援を頂いている。また、中学生の介護体験実習など支援している。消防の方は、避難訓練の際に協力を頂いている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問マッサージ、訪問理容、訪問看護を利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に毎回参加して頂いている。他にも区単位での計画作成担当者の研修会の手助けや相談等、協力を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	かかりつけの病院の看護師や訪問看護師に相談している。		痛み等自ら訴える事のできない利用者様に関しては、日頃からよく観察をし病状を見極めて対応していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	内科の主治医とは別に、認知症の専門医に診断・治療を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	併設のデイサービスの看護師に日頃から利用者様の健康状態に関して相談(医療連携)している。また、夕方巡回にも来てくれている。自宅も近く夜間においても何か異常があれば、駆けつけてくれる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	出来るだけ職員もお見舞いに伺い、入院中の状態把握をしている。担当医と話し合いをする場にもご家族様と同席させて頂き、一緒に方向性を検討している。認知症の方には環境の変化が症状を進行させてしまうため、通院でフォローできる際は、そのように対応して頂いている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居の際に指針は説明している。また、常時医療が必要となった際はグループホームでの対応は困難であることも説明している。		常時医療を必要としない場合、終末期の対応をきちんと検討する必要がある。(職員の配置やかかりつけ医との連携等)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	主治医と協力病院との連携体制はできている。		終末期に向けての職員の準備がまだできていない。終末期をケアするにあたっての職員の教育や意志の統一が必要である。今後は勉強会や研修、職員同士での話し合いを十分に進めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。		
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		介護度によっては、利用者様本位の生活ではなくなってしまう場合もある。もう1度、見直し一人ひとりに合った生活が送れるように支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。		一緒に買出しに行ったり、外食も個別にする等全員が行けるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々の好みを把握し、献立に取り入れるように努めている。また、飲酒や喫煙を習慣にされている利用者様はいないが、正月やクリスマス、夏祭りに希望される方がいれば、提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンは排泄表を用いて把握するよう心がけている。表情やサインを読み取り、声掛けにてトイレへお連れしている。リハビリパンツの使用を中止し、下着へお試してみたり、日々利用者様の状況を観察し、ケアをしている。また、介護度が重い方でも職員が2人で介助しトイレにて排泄するよう心がけている。夜間は睡眠を優先し、吸収量の多いオムツを使用している方もいる。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者様のご希望をお聞きしながら、体調の確認もし入浴を行っている。また、リフト浴を利用し利用者様も安心して入浴できるよう努めている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者様の生活のリズムを整え、日中はレクリエーション等行い、活動的に過ごし、夜間は良眠できるよう努めている。また、眠れない利用者様にはホットミルクをお出ししたりし、安眠に繋がるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1人1人の潜在機能、出来ることを把握し、日々の生活の中で発揮できるようにしている。家事等の参加を申し出る方には役割を持って頂き、メリハリのある生活を送って頂いている。しかしこの事が、利用者様にとって負担とならないように配慮している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分でお財布を持ち、お金を管理していらっしゃる方もいる。他の利用者様でご希望されるものがあつた際は、職員と一緒に買い物をして対応している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している。	暖かい日は、近所へ散歩へ出かけたり、短時間であってもなるべく外に出て外気浴されるようお誘いしている。また、ドライブや外食にもお出かけしている。(えこりん村、とんでんへ外食等)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたく普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	レンタカーを利用したドライブやコンサートに同行したり、自宅に帰りたい方に対し ては、ご家族様と相談し意に沿った対応をしている。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	手紙、電話は自由にやり取りが出来る体制にしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	リビング、ラウンジ、和室を利用して頂き、居心地の良い環境(殺風景にならず、花や 絵など)を整え、ゆっくり過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしない ケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会にて身体拘束をしないケアについて学び、他職員にも伝達して いる。また、研修にも参加し、全職員が理解を深めている。身体拘束に限らず、言葉 や薬による拘束等についても認識するように取り組んでいる。また、車椅子を使用し ている方であっても、一日中車椅子に座ったまま過ごすのではなく、ソファや椅子 に移乗して頂いている。転倒の危険性のある方に対してもご本人の意志を尊重し、 見守りの中歩行器等を使用し歩いて頂いている。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関には鍵をかけず、鈴を付け出入りが把握できるようにしている。夜間は 外部からの侵入者等の危険もあるので保全のため施錠している。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	昼夜を通して、利用者様の所在の確認をしプライバシーに配慮しながら、安全に過ご して頂けるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自己管理が出来る方に関してはお渡ししているが、管理が出来ない方に関しては職員の方でハサミ、針等は保管させていただいている。使用される場合(希望があった際は)、職員の目の届く場所にて安全面を確保して使用していただいている。できることを奪ってしまわないように工夫してご使用して頂いている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	防災訓練、避難訓練、救命訓練の研修を受けている。また、事故報告書を用いて職員間で原因を究明し、再発防止策を検討し実行している。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署で行われている救命救急の講習を受けたり、マニュアルを作成しいつでも見れる場所に提示している。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回防災・避難訓練を実施している。また、消防への自動通報システム、セコムへの自動通報システムもある。緊急時の対応も連絡網、協力体制(職員がホームの近隣である)は整えている。また、昨年スプリンクラーの設置も済み、安全に生活が送れるようしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状況にあわせた安全対応はご家族、主治医とも相談している。リスクがあるから、その機能を奪い取らず、危険を最小限にし職員がカバーをし、安全な生活が送れるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行っている。入居者様は、身体の不調を自ら訴えられない場合が多く、体調、表情、行動、言動、いつもと何かが違うと感じた際には、看護師、主治医、管理者に連絡し必要時は受診している。また、朝のミーティングで情報を共有している。ご家族様への連絡も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は職員が管理しており、名前、日にち、朝昼等袋に記載し、服薬時に確認し飲み込むまで見守りをしている。また、受診報告書は必ず目を通し、薬の変更時は薬の説明書に目を通すようにしている。もっと詳しく知りたい時にはインターネットで調べている。症状の変化の際には医者へ連絡し早急に対応している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘や、おなかの不調は不穏を招くことは職員は理解している。利用者様の排便状況を把握し、下剤を主治医と相談し調整している。他にも薬以外に腸の働きを良くするように運動量を増やしたり、ヨーグルト、オリゴ糖を使用している。排泄時の姿勢や、朝のトイレ(朝食後)の誘導など自力排便へ繋がるように対応している。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後は義歯洗浄、歯磨きの口腔ケアを実施している。肺炎予防の為に必ず実施するよう心がけている。義歯は夜間、(頻度を決めて)洗浄液につけて清潔を保持している。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量や栄養バランスは利用者様の状態を考慮して食事を作っている。介護度が重い方や状態に変化あった際は食事量や水分量を記録して職員間で把握している。体重が増加している方には、こんにゃくごはんを取り入れたり、カロリーを考えて食事を作っている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成している。また、毎日手すりやドアノブの消毒、まな板、布巾、おしぼりの除菌、食事前の手洗いはまたは手の消毒等を実施している。受診に行く際は必ずマスクをし、外から帰ってきたら必ず消毒、手洗いうがいを実行している。温度と湿度にも気をつけている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾類は毎日除菌・洗濯を行っている。冷蔵庫内は清潔を保持し、食材の残りや賞味期限のチェックを行っている。食品に関しても出来る限り、地産地消とし、新鮮なものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関や建物も周囲は花や木を植え、季節ごとの飾りつけも行っている。玄関は光が入り、明るい雰囲気になるようにしている。冬期間においても除雪やロードヒーティングにより、歩きやすいようにしている。ユニットの玄関には、玄関の認識を持って頂くためにあえて段差を設けている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分(居間、廊下、壁)の飾り付けをし、普通の家のような雰囲気作りや季節が味わえるように季節毎に置物、飾り付けをし、居心地の良い環境作りをしている。利用者様にとって不快な音や光には配慮している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの他、ラウンジ、和室があり、時には併設のデイサービスへ遊びに行かれたりと一人ひとり、自由な空間に行き、自分にとって充実した時間が送れるようにしている。雑誌や本、置物、景色が見やすいようになど、工夫している。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物、タンス、ベッド、置物や写真、絵、仏壇等慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、一人ひとりが自分の部屋で居心地よく過ごせるよう努めている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気や排泄物の処理等、気になる臭いが無いよう努めている。温度や湿度調整もこまめに行い、快適な暮らしができるようにしている。居間にはエアコンの設備もあるが、使用することにより体調の変化もありえる為、慎重に使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりが安全に自立した生活が送れるように、福祉用具(歩行器)等の使用や手すり(廊下、トイレ、浴室)等住環境を整えている。浴室にリフトを付け使用することで、利用者様は安心してゆっくりと入浴できるようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や失敗を防ぐ為、目印や表札を使用したり、夜間は居室やトイレにスポットライトを当てて対応している。また、状態の変化があった場合は何が原因かアセスメントし対応している。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	施設敷地内に畑を作り、作物を共に植え収穫し、調理し食卓に並んでいる。また、花も楽しめるようにプランターや畑に鮮やかな花を植え、外を見る楽しみ、心が豊かになるように努めている。		

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)